

コロナ時代の 介護施設の面会と 家族対応

里村佳子

社会福祉法人 呉ハレルヤ会
呉ベタニアホーム 理事長
広島国際大学 臨床教授



法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究家(MBA)卒業。ケアハウス、デイサービス、認知症対応型デイサービス、小規模多機能ホーム、サービス付き高齢者向け住宅、グループホーム、東京(杉並区荻窪)の訪問看護ステーションなどを運営している。呉市介護認定審査会委員、広島県精神医療審査委員も務めている。著書に『尊厳ある介護』(岩波書店、2019年)がある。

新型コロナウイルスのワクチン接種は始まりましたが、感染リスクがゼロになるわけではありません。たとえ収束したとしても、新たな感染症が起こって、私たちの生活を脅かすのではないのでしょうか。だからこそ、コロナ禍の体験を無駄にせず、今後に生かすことが求められています。

そこで本稿では、利用者のQOLを低下させないよう取り組んだ事例を、面会と家族対応にフォーカスしてお伝えします。読者の皆様の今後の家族対応に役立てていただくと幸いです。

面会制限開始

新型コロナウイルスで社会が混乱しはじめた2020年の2月下旬、私たちのグループホームは面会制限を設けました。風邪症状や発熱が認められる家族は、面会を控えていただくようにしたのです。それで様子を見ていましたが、3月に入って全国的に感染が拡大したため、緊急時以外の面会はお断りすることにしました。

施設をロックダウンすることは、利用者を感染から守るためにはやむを得ない

ことですが、心配なことがありました。それは、これまではインフルエンザやノロウイルスなどの感染症で、長期にわたって面会を中止することはなかったのですが、誰も来ない期間が続くと利用者の心身に何らかの悪影響を及ぼすのではないかということです。

特に、家族が頻回に訪ねてくる利用者には、急に会えなくなるので不安が募ることでしょう。それでなくても利用者はマスクをするよう求められたり、テレビや新聞などを見たりして、いつもとは違う周囲の変化を肌で感じていらっしゃると思います。その上、長期の面会中止は利用者だけでなく、家族にも影響を及ぼします。

私事ですが、2019年に昇天した母がほかの施設を利用している時、インフルエンザが原因で面会できなくなった期間がありました。ほぼ毎日のようにその施設を訪問していたので、時間に余裕ができて身体的には楽になったのですが、施設から何の連絡もないので不安になりました。連絡がないのは元気な証拠と自分に言い聞かせていましたが、もやもやとして毎日を過ごしていました。